

吉浦中学校区小中一貫教育推進協議会だより

あ

い

「あい」は eye 自分の目で何が正しいかを見抜いてほしい

「あい」は I 自分自身を大切にしてほしい

「あい」は 会い 人との出合いを大切にしてほしい

「あい」は 愛 人にも自分にも愛の心で接してほしい

令和6年3月13日

令和5年度を振り返って

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症予防法上の2類から5類に移行したことから、学校の行事や様々な教育活動、また地域等の行事がコロナ禍以前に戻り、また、コロナ期間に取り組みされた新たな形態での活動が継続された一年でした。

吉浦中学校区では、令和4年から2年間、呉市教育委員会から、小中で創る「未来の学び」実践事業の指定を受け、「自分から進んで課題解決に取り組むことができる児童生徒の育成～「チャレンジ（選択肢と自己決定）の取組を通して～」という研究主題を掲げて、子どもたちの「主体的に学ぶ力」の育成に取り組んできました。子どもたちの姿をもとに研究をスタートし、子どもたちが自ら課題を見付け、解決方法を探り、さらに発展させていくように、小・中学校の教職員が顔を寄せ合って、指導方法を探り、工夫し、改善していくなど授業の仕方について研究・研修を繰り返してきました。広島県教育委員会村田主任指導主事様のご指導を受け、子ども目線で授業を見ていくことや、子どもたちの学ぼうとする力を信じ、子どもたちと目標を共有しながら進めていく授業となるように取り組み、県内外の先進校の視察等も行ってきました。

令和5年11月14日に行った研究会では、各学年・各学級でこれまでの研究の成果を示すことができ、参加していただいた多くの方々から好評価をいただきました。当日の子どもたちの姿は、生き生きとし、英語でのインタビューや話し合い、発表など、自分から学ぼうとする姿を見せてくれていたと思います。

研究に際して子どもたちにとってアンケートにおいても、学ぼうとする意欲が高まっていることがわかり、意欲面での改善が見られたことは、取組の有効性を示すと共に、この後の方向性を示してくれたものと思います。

子どもたちが生き生きと取り組むことができる授業づくりは、形ができましたが、子どもたちの学びは途切れません。この後も、子どもたちが自分から進んで課題解決に取り組むことができるように、引き続き子どもの姿をもとに、授業づくりを進めていきますので、ご協力よろしく申し上げます。

一年間ありがとうございました。

吉浦中学校 校長 河本 英希



令和5年度(3学期) 小中一貫教育における活動等の様子

①乗り入れ授業

〔小・栄養教諭→中〕(1月26日)

小学校の栄養教諭が中学2年生に、「適塩」についての授業をしました。



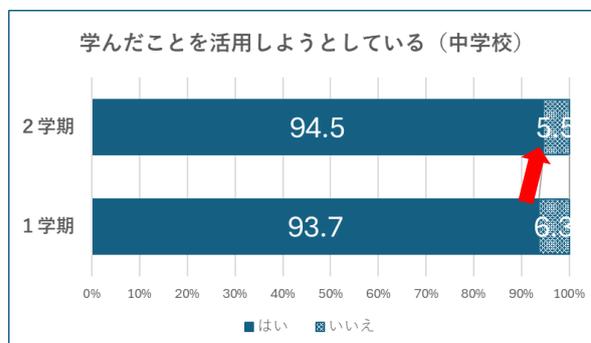
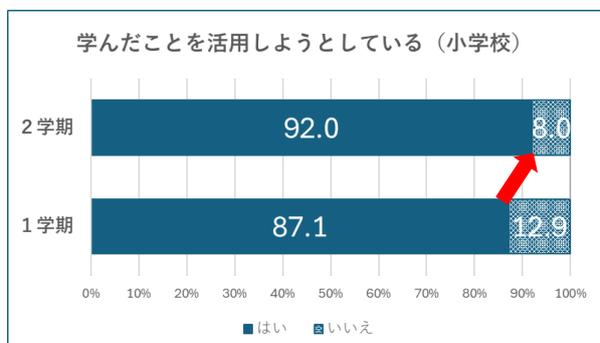
〔中・外国語科教諭→小〕(2月7日)

中学校の外国語科教諭が小学6年生に、「入国審査」の場面の授業を行いました。難しい英語の表現もありましたが、意欲的に英語でやり取りをしていました。



②今年度の取組から

今年度は「チャレンジ(選択肢と自己決定)」の取組を通して、自分から進んで課題解決に取り組める児童生徒を育てることでした。伸びの大きかった検証結果の一部を載せています。



小学校、中学校ともに、自分から進んで課題解決に取り組む過程で、学習したことを活用しようとする意欲に高まりが見られました。今後も、主体性を伸ばすとともに、学力の向上につながる取組を続けていきます。